



2010～'11 年度 YCE(夏期・冬期) 活動報告

2010～'11 年夏期 (7～8月) YCE 来日学生



Anastasia OUDALOVA(18才)
(オランダ)
ホスト C
鹿児島南洲 LC・沖縄 LC



Jiri PRIBYL(19才)
(チェコ共和国)
ホスト C
喜入 LC・浦添てだこ LC

2010～'11 年冬期 (12～1月) YCE 来日学生



Tan Wan Yih(21才)
(マレーシア)
ホスト C
川内 LC



Ng Seow Voon(16才)
(マレーシア)
ホスト C
鹿屋 LC



Phuah Xin Jie(16才)
(マレーシア)
ホスト C
鹿児島さつま LC



Chong Yi Ru(19才)
(マレーシア)
ホスト C
鹿児島城山 LC



Yong Tzy Jie(19才)
(マレーシア)
ホスト C
北谷 LC・宮古 LC



Chew Li Ren(16才)
(マレーシア)
ホスト C
浦添ウェスト LC

2010～'11 年夏期 (8月) YCE 派遣学生



中向誠志郎(16才)
鹿児島さつま LC
派遣国
(マレーシア)



比嘉昭仁 (19才)
浦添てだこ LC
派遣国
(マレーシア)



佐久川祥子(20才)
沖縄 LC
派遣国
(マレーシア)



平仲 唯(18才)
沖縄 LC
派遣国
(マレーシア)

■夏期来日学生 (7～8月)

オランダ (1名) チェコ共和国 (1名)

■夏期派遣学生 (8月)

マレーシア (4名)

■冬期来日学生 (12月～1月)

マレーシア (6名)

本年度現在までのYCE並びにレオ・ライオネスクラブ活動についてご報告申し上げます。

夏期・冬期来日学生フォトレポート

【Miss. Anastasia OUDALOVA アナスタシア オダロヴァ (2010.7～8 夏期来日学生・オランダ 鹿児島南洲 LC/沖縄 LC)】



(第1ホスト/鹿児島南洲 LC) 歓迎会



(第2ホスト/沖縄 LC) 歓迎会



【Mr. Jiri PRIBYL ジリ プライバル (2010.7～8 夏期来日学生・チェコ共和国 喜入 LC/浦添てだこ LC)】



(第1ホスト/喜入 LC) 種子島宇宙センター見学。かなり興味があった様子。



(前之浜保育園にて、園児と一緒に遊ぶ。)



(第2ホスト/浦添てだこ LC) 例会参加及び歓迎会

【Mr. Yong Tzy Jie ヨン ツェ ジー (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/北谷LC・第2ホスト/宮古LC)】



(北谷第2小学校にて6年生にマレーシアの紹介を。)



(北谷町教育長を表敬訪問/第1ホスト)



(新春交歓会&YCE留学生送別会/第2ホスト)

【Miss. Phuah Xin Jie プア シン ジー (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/鹿児島さつまLC)】



(クリスマス例会にて歓迎会。)



(初体験の雪の中で。)



(お正月でのショット。)

【Miss. Tan Wan Yih タン ワン イー (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/川内LC)】



(着物初体験。)



(初雪体験。)



(中学英語の授業に参加。)



(YCE歓迎会 三役と記念撮影。)

【Miss. Ng Seow Voon ング ショウ ヴーン (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/鹿屋LC)】



(鹿屋LC 山崎会長が出迎え、ホストファミリー並びに来日学生を囲んでの歓迎会。)



【Miss. Chong Yi Ru チョン イー ルー (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/鹿児島城山LC)】



(初めての雪だるま作り。)



(除夜の鐘つき。西本願寺)



(あでやかな振り袖姿。)



(書道。学校の授業で経験あり。)

【Mr. Chew Li Ren チュー リーレン (2010.12～2011.1 冬期来日学生・マレーシア 第1ホスト/浦添ウェストLC)】



(浦添高校バスケットボールクラブのメンバーと。)



(ボウリングを楽しむ。)



(お寿司に初挑戦。)



(浦添ウェストLC忘年会に参加。)

【中 向 誠志郎さん (2010.8 夏期派遣学生・マレーシア スポンサーC/鹿児島さつま LC)】



(ホストファミリーと。)



(ホストクラブ例会にてスピーチ。)



(沢山の友達が出来ました。)

この夏、僕はYCE派遣生として、マレーシアの方に2週間行ってきました。今回、鹿児島からの参加は僕一人だけだったので、一人でもと楽しんでほしい、わくわくする気持ちでいっぱいでした。しかし、いざマレーシアに着いた時は見るもの聞くもの全てが英語で、ここはもう日本ではないと、少しずつ期待が不安へと変わりつつありましたが、マレーシアのホストファミリーの方が、僕を本当の家族のように受け入れてくれたおかげで、ホームシックにかかることなくホームステイを終えることができました。マレーシアは多民族国家で、主にインド系、マレー系、中国系の3つの人種に分かれています。僕のホストファミリーは中国系だったので、食事は主に中国料理が出されました。ホストファミリーの中に高校生のホストブラザーがいたので、年が近いということと、日本のアニメが好きということで、とても話し合い、すぐ仲良くなり、その子の学校にも連れて行ってもらい、たくさんの友達が出来ました。ほとんどの友達が日本のアニメが好きだと言っているのに驚きました。放課後に学校で友達になった人達とバスケットボールをしたり、バドミントンをしたりして遊びました。クアラルンプールという街は、とにかく車が多いのと、建物も高く大きいものが多いことにも驚きました。それと、マレーシアを走っている車やバイクの中には、日本製のものも多く見ることがありました。ホストファミリーが、日本の製品は良いと言っていたので、僕は改めて日本を誇らしく思いました。マレーシアには、たくさんの宗教があり、僕は初めてイスラム教の人々を見ることができました。他にツインタワーというマレーシアで一番高い建物を見に行ったり、錫の工場見学に行ったり、お寺を見に行ったり、たくさんのマレーシアの名所に連れて行ってもらいました。その中で、ホストファミリーともすっかりとけこんで、楽しい時間を過ごすことが出来ました。日本からの派遣生が集まったキャンプでは、登山をして、僕は生まれて初めてヤマヒルというものに足の血を吸われるという、大変素晴らしい体験をさせてもらいました。他にも遊園地に行ったり、一緒に食事をして楽しい一泊二日でした。マレーシアに行って僕が感じたことは、マレーシアはまだ発展途上国だと言われますが、ホストブラザーやマレーシアの友達を見ると、みんな一生懸命勉強していて、日本などの他国への関心があり、とてもしっかりしているなぁと感じました。なので、すぐにはわかりませんが、いずれ先進国になるのは間違いないと思いました。

最後になりましたが、おじいちゃん、おばあちゃん、ライオンズの方々、県交通被災者たすけあい協会の方々、ホストファミリーとマレーシアの友達に、御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。この貴重な経験を十分に生かせるように、これからも勉強、スポーツなどを、マレーシアの子供達に負けないように頑張ります。

(原文のまま)

【比 嘉 昭 仁さん (2010.8 夏期派遣学生・マレーシア スポンサーC/浦添でだこ LC)】



(キャンプにて多くの仲間と楽しい一時を過ごした。)



(ホストファミリーに囲まれて。)

今回、8月4日から8月19日までの約2週間マレーシアにホームステイをしました。飛行機を4回乗ってパナン島という小さな島に行きました。ホストファミリーと空港で初めて会った時は、緊張して何を話しているかわからず焦ってしまいましたが、ホストファミリーの人がゆっくり話してくれたので緊張もすぐとけました。ホストファミリーの Shawn さんはとてもいい人で本当に息子のように接してくれました。マレーシアにはたくさんの屋台があり、朝、昼、夕方というんな場所で食べました。最初は人の多さに圧倒されてしまいましたがご飯は予想以上においしかったです。マレーシアはたくさんの民族が集まっている国なので、インド、マレー、タイ、中国、台湾など多くの料理を食べることができました。なかでも中国料理はとてもおいしかったです。マレーシアは基本的に辛い料理が多くて、僕は辛いのが得意ではないのでおいしかったのですがあまり食べられませんでした。ご飯を食べる時にお箸ではなくスプーンとフォークで食べるので慣れるのに少し時間がかかりました。後マレーシアには、フルーツがたくさんあって、中にはドリアンなど口に合わないものもありましたが、ほとんどのフルーツがおいしかったです。マレーシアにはたくさんのお寺があり、中国、インド、タイなどそれぞれ違ったお寺がありとても興味深かったです。宗教によって食べられないものがある、僕がホームステイした所は牛肉が食べられないので鶏肉が中心でした。マレーシアで驚いたことはとても車のスピードが速いことです。ただ速いだけならいいのですが、運転もとても荒いので最初は少し怖かったです。そのせいもあってか、2週間で2回も小さい追突事故に遭ってしまいました。絶対マレーシアで車を運転したくないなと思いました。他にも僕のホームステイ先だけかもしれないですが、朝食、昼食、夕食、夜食と1日4食が当たり前なのは驚きました。夜食は軽く食べるだけかと思ったら、わざわざ屋台などに行ってご飯を食べたりしました。日本のアニメや漫画がとても人気があり、デパートの中に専門店があるくらいでした。日本で人気がある漫画やアニメはマレーシアでも人気がありどこでも好みは一緒だなと感じました。

日本に比べてマレーシアは物価が安いのですが、電化製品やブランド品は日本と同じ位かむしろ高いくらいでした。特に日本製の電化製品は日本より高かった印象があります。しかし食べ物とはとにかく安く、マクドナルドなど日本にもあるお店で比べても半分近くの値段で売られていました。屋台でも 300円位でお腹いっぱい食べられました。パナン島からバスで6時間かけて YE キャンプに行きました。キャンプで1泊だけ過ごしましたが、いくつかの国の人とコミュニケーションをとれたことはとてもいい経験になりました。キャンプでは初日には遊園地に行きジェットコースターなどに乗り、夜はマレーシアについてのビデオを観たり、YE 生で自己紹介などを行いました。2日目はジャングルの中を散策しました。結構長い道のりでもかなり疲れました。

ホストファミリーは大学で研究をしているので大学生の友達が多くたくさん遊ぶことが出来ました。みんなで映画を観に行ったり、カラオケに行ったりと年が近いのでノリも似ていてとても楽しかったです。今回ライオンズクラブの派遣生としてマレーシアに行くにあたって、たくさんの人々と文化に触れることが出来ました。マレーシアに行ったことで多くのことを学ぶことができ、考え方が広がりました。ライオンズクラブの方々にはいろいろとご迷惑をおかけしましたが、無事終わることが出来ました。このような機会を与えていただき本当にありがとうございました。

(原文のまま)

【佐久川 祥 子さん (2010.8 夏期派遣学生・マレーシア スポンサーC/沖縄 LC)】



(ホストファミリーと。)



(YCEキャンプ集合写真。)



(ホストファミリーと屋台にて。)

今回は8月4日から8月19日までの2週間、マレーシアのパナンという島で2週間ホームステイをしました。パナンは首都のクアラルンプールから飛行機で1時間ほど離れていて、沖縄のような小さな島でした。人口は沖縄より少し多いくらいで私にとってはとても暮らしやすい所でした。マレーシアに行く前は不安というのはあまりなく、すごく楽しみにしていました。しかし、行く前にホストファミリーと連絡を取っていて電話をすることになったとき言葉が通じないということに気づき、すごく不安になりました。私はリスニングには少し自信があったのですがホストブラザーの英語はネイティブの発音とは違って訛りというか中国人の話す英語という感じで少し聞き取りにくいこともあり、慣れるのに結構時間がかかりました。また、ホストマザーは台湾人で英語を話すことができませんでした。しかし、台湾の人は、日本に統治されていたという歴史から日本語を話せる人が多いらしく、また、ホストマザーは日本で少し勉強したという経験から日本語がとても上手でした。

ホストブラザーが学校に行っている間はホストマザーと二人きりだったのでたくさん日本語でお喋りしました。ホストマザーは勉強熱心で私が日本語を教えていましたが普段使っている日本語が、このとき初めて難しいとおもいました。細かい使い分けや難しい表現などです。しかしそれとても楽しい時間でした。ホストブラザーがいるときは、積極的に英語で話す努力をしました。実際にマグナドで英語で注文したこともいい思い出です。日本語でも英語でもなかなか話が通じないときに漢字を使うことで理解できたときはおもしろいなと思いました。

ちんすこうのパッケージを見ながら「沖縄にもお城があるんだね。」という会話から始まり、たくさん沖縄の話をしました。インターネットや写真を使って海を見せたり、沖縄のたくさんの世界遺産を見せたり、旧暦の話や七夕の話でたくさんの共通点があることを知ってとても楽しかったです。最初の1日目2日目は、ホストファミリーの家庭で私があたふたしているとホストマザーが「ここはあなたの家だから自由にくつろいでいいよ」と言われたときはすごく嬉しかったのを覚えています。それから私は気を遣いすぎることなく、「～がしたい、～が食べたい」「好き、嫌い」などははっきり言って、早くこの家庭に溶け込み、この短い期間をおもいきり楽しもうと決めて行動しました。今、振り返って考えるとそれはとても良かったのではないかと思います。ホストブラザーが学校の間、ホストマザーは本当にたくさん私の所に連れて行ってくれました。パナンの有名観光地はほとんど回りました。中でもインドやイスラムのお寺などがすごく大きくて細かな装飾などがとても綺麗でした。お昼頃になるとイスラムの人が学校からぞくぞくと出てきてお寺に向かう光景は印象的でした。また、この国の大きな格差には驚きました。普段日本で生活している格差を感じることはほとんどないですがマレーシアは住んでいる家からかなりの違いがあって私たちのホストのような大きなお家がたくさんある高級住宅街から少し離れると狭い土地にぎっしりと古いアパートがたくさんありました。そこに住んでいる多くはインド人だということもホストマザーから聞きました。他にもインドの階級の話もして、インドの中でも色の白い人は弁護士や医者の仕事をしていて他の人は使用人など、昔からの制度が今も残っていると聞いていました。14日、15日のキャンプでは、友達をたくさん作ることができました。パナンからバスで6時間ほどかけてクアラルンプールに行くのはとても疲れましたが、イタリア、フィンランドの人とも交流が持ててすごくよかったです。フィンランドの写真を見せてもらって、行ってみたいと思いました。夜のディナーでは日本の出し物をしたそうですが私は帰りのバスの都合で参加できず、それが少し残念でした。

キャンプで出会った中国人は友達同士でも英語で話すそうで、話す英語もネイティブなきれいな発音でした。私のホストブラザーに聞くと、友達同士では中国語を使うそうで、生活していて英語はほとんど使わないと言っていました。同じ中国人なのになぜか不思議に思い、聞いたところ、マレーシアの学校は中国語、英語、インド語の3つがあるらしく、その行く学校によって喋る言葉も異なってくるそうです。また、中国人でも、英語は完璧ですが、中国語は少ししか話せない人もいるという話を聞いたときはすごくおもしろいなと思いました。

マレーシアの料理ですがわたしはとても口に合っていて、いつも食べ過ぎてしまうほどでした。ホストマザーは滅多に料理はせず、朝ご飯から屋台へ食べに出かけていました。1週間目はすべて違う料理に挑戦し、2週間目からはおいしくてまた食べたいと言ったところに連れて行ってくれました。多民族国家を実際に見て、最低でも3カ国語が話せることをとてもうらやましく思いました。沖縄も基地があることをマイナスだけに捉えられないで英語を話す人たちが近くにいるということをプラスに考えて小学校からもっと実践的な英語に力を入れたり、今英語が当たり前になっている世の中を考えればこんなにいい環境はないのではないかなと思いました。2週間はあっという間に過ぎましたが、たくさんのことを学んで帰ってきた気がします。マレーシアはとてもいいところで大好きです。でもやはり日本は、なかでも沖縄はどこに行っても自慢できるほどいいところだなということにも気づきました。ホストブラザーが帰っても連絡を取り続けようねと言ってくれたことはとても嬉しくて、これからも写真を送ったり、メールをしりょうと思います。また、故郷を離れ、マレーシアに行き、自分の長所や短所が見えてきた気がします。それを今後の就職活動にも活かして頑張りたいと思います。

今回、このような貴重な体験をさせてもらったことにとても感謝しています。また、ホームステイの前にバス先生の英語のレッスンを受けられたことに感謝しています。沖縄ライオンズクラブのみなさん、本当にありがとうございました。(原文のまま)

【平 仲 唯さん (2010.8 夏期派遣学生・マレーシア スポンサーC/沖縄 LC)】



(ホストファミリーと。)



(マレーシアの学生の皆さんとの交流会に参加。)



私は、ライオンズクラブのYE生として8月3日～19日の約2週間、マレーシアへ行ってきました。私は前から国際交流に興味があり、この企画に応募した理由の一つでもあります。参加が決まったときから、マレーシアに行くのがとても楽しみで一体どのような国だろうかと疑問に持ち、人種、宗教、食事、観光…様々なことをインターネットで調べたり同じ大学に通うマレーシア出身の人に話を聞いたりしました。調べたり、話を聞いたりすればするほどイメージは膨らみ気持ちは先にマレーシアに行ってしまうようでした。マレーシアへ向けて出発の日、沖縄から数えて飛行機を2回乗り継ぐという長旅でしたがクアラルンプール空港の到着ロビーで、ホストファミリーの人たちの温かい歓迎を受けた時に、疲れよりもやっと着いたのだという安心感が大きかったです。マレーシアは私がイメージしていたよりもずっと都会的でした。しかし、単に高層ビル街があるだけではなく都市から少し離れるとまだ多く

の自然も残っていて、バランスが取れていると感じました。また、マレーシアはとても暑いと聞いていたのですが沖縄と気候的にとても似ていて、どちらかといえば沖縄よりも空気がカラッとしていたので過ごしやすかったです。また、食事も色々な人種が居る分、たくさんの種類があって初めて食べるものばかりでしたがとても美味しく食べることができました。でも、人生初めてのドリアンはとても独特な味で美味しくなかったです。ホームステイをしていた約2週間、ホテル観察やバードパーク、ツウィンタワー、ジャングルなど色々な場所へ行き、多くのことを見たり、体験したりしていたおかげで毎日が新鮮でとても充実していました。マレーシアでの体験を経て、多くのことを感じたり、考えたりすることができました。まず1つめは「語学を学ぶ大切さ」です。ホームステイをして一番困ったことが、自分の気持ちを上手く英語にして伝えることが出来ないという言葉の壁です。初めは、英語が多少離せなくてもジェスチャーでどうにかなると思っていました。しかし、滞在中で、日本とマレーシアの歴史や文化の違いや似ている部分などについて話す機会がたくさんあり、同じ年齢の学生さんと交流した時に自分が今学んでいることや社会の関心などを話すときに自分の考えを上手く相手に伝えられなかったときにすごく悔しい気持ちになりました。その時に、異文化理解をしようとするときにその国の言葉を勉強することから始まるのだと知ることが出来ました。また、ホストマザーの話の中でも「英語はね世界の共通語だから、英語が話せるのもっと色々な国の人たち関わられるようになるから大事だよ」と出てきていて、私自身もそれを聞き共感したと同時に、日本に帰ってもっと語学の勉強をして多くの国、人々と関わり学びたいと思いました。2つめは「自分が住む国、地域をもっと深く知る」です。異文化交流をしていき、たくさんの文化や歴史を学びました。と同時に日本や沖縄と比べていくと今まで知っているつもりだった日本や沖縄について自分が知らないことに気づきました。例えば、戦争の話でも日本側から見た戦争とマレーシアから見た戦争は少し違う部分があり、普段とは違った視点で考えるきっかけになり、それについて深く考えそして、異文化交流の意味がただ異国のことについて学ぶだけではなく異国のことを学び理解した上で自国と比べ改めて自国の文化や良さについて学ぶことではないのかと考えました。なので、日本や沖縄のことを深く知った上で他国の人に伝えていくことが大事だなと感じました。今回マレーシアに行って本当に良かったなと思います。正直なところ、2週間はとても足りないと感じるほどでした。自分の知らない世界を目で見て、耳で聞いて、体で感じて多くのことを学び、考えることが出来た本当に濃い2週間でした。そして、もっと色々な世界をみたいと思うようになり、自分の視野を広げ成長できる良いきっかけになったと思います。また、マレーシアで出会えたホストファミリー、友達などと連絡を取り合いもう一度マレーシアに行きます。

最後に、沖縄ライオンズクラブさんをはじめ、英会話の先生方ホストファミリー、家族、YE生と多くの方がサポートしていただいたおかげで充実した2週間を過ごすことができました。ありがとうございました。マレーシアで体験し学んだことを今後の学校生活や将来に活かしていきたいです。そして、これからも積極的に色々なことに挑戦し自分自身が成長できるよう努力していきます。

いい機会を与えていただいて本当にありがとうございました。

(原文のまま)

冬期来日学生出迎え

2011年12月20日(土)

冬期来日学生見送り

2011年1月7日(金)



YCE 役員・ホストファミリー外の歓待で出迎えられた。(鹿児島空港)



(鹿児島空港)



ホストファミリーに見送られるマレーシア来日学生。

(沖縄空港)

2010～'11 年度レオ・ライオネスクラブ 活動報告

【さくらじまレオクラブ (スポンサーC/鹿児島 LC)】



(献血 PR 活動)



(地域清掃活動)



(レオクラブ例会)



(桜島学園にイルミネーション設置作業)

【種子島レオクラブ (スポンサーC/種子島 LC)】



(EM 団子作成 ~ 河川への放流)



(種子島サンセット車いすマラソン選手受付・選手サポートボランティア)



【久木田学園レオクラブ (スポンサーC/鹿児島さつま LC)】



(337 複合地区第 1 回レオ年次大会(長崎大会)へ D 地区代表として。年次報告発表、アワード受賞。)



(第 4 回鹿児島県障害者スポーツ大会へ、ボランティア参加。)



(機能・知的障害者選手たちによる多種スポーツ競技を介助支援するレオ学生たち。)



(定期的に活動している特別養護老人ホームへ介護ボランティアとして参加。)



(鹿児島市内ライオンズクラブ合同献血運動に参加。先生 1 名、学生 50 名。)



(平成 22 年 8 月開催された第 19 回全国専門学校バレーボール選手権大会に県代表として出場、見事準優勝に輝いた。)

【川内レオクラブ (スポンサーC/川内 LC)】



(鹿児島純心女子大学の学生 11 名からなるボランティアサークルです。月に一度、大学および川内駅周辺の清掃活動を主に活動しています。これからはさらに活動の場を広げていきたいと思っています。)



(冬期来日学生の Tan wan yih さんと新田神社へ初詣。)

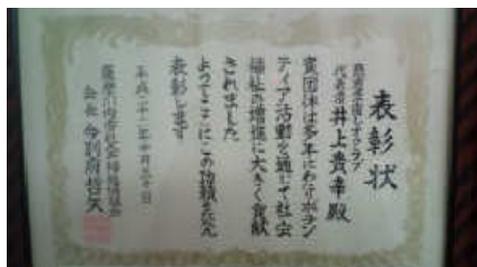
【慈恵学園レオクラブ (スポンサーC/桶脇・市比野 LC)】



(八幡神社清掃。)



(2010 年 10 月 30 日に薩摩川内市社会福祉協議会より表彰されました。)



【国分単人レオクラブ (スポンサーC/国分単人 LC)】



(幼児サッカー大会にて献血推進キャンペーンとアシスタント。)



(レオ研修、霧島連山中岳・新燃岳登山 登山をしながらゴミ拾い。)



【鹿屋レオクラブ (スポンサーC/鹿屋 LC)】



(第 51 回鹿屋ライオンズクラブ献血奉仕協力。)



(歳末助け合い募金運動。於：ニシムタ)

【鹿屋ライオンズクラブ (スポンサーC/鹿屋 LC)】



(鹿屋市へ口蹄疫義捐金 贈呈。)

【フライングレオクラブ（スポンサーC／鹿屋第一LC）】



（歳末助け合い募金活動。今回は、鹿屋市の「プラッセだいわ」と「きたやま」で。）



（鹿屋市福祉協議会へ集まった募金を代表して届けてきました。）

【祝 第一幼児教育短期大学レオクラブ（スポンサーC／国分隼人LC） 2011年2月25日結成】

地区ガバナー 鬼塚俊郎

国分隼人ライオンズクラブにおかれましては、本年2月25日に、第一幼児教育短期大学にレオクラブの結成がなされましたことに、心よりお祝いを申し上げます。私のガバナー任期中にこのような素晴らしいレオクラブが結成されたことに大変嬉しく、また有り難く思う次第でございます。

これからの社会を担う若者は、地域の大切な宝であり、重要な社会資本でもありますが、レオクラブは、ライオンズクラブの活動の中に、青少年の健全育成の一環として位置づけられているものであり、奉仕活動の中でも重要な位置づけがなされているところです。

政治・経済が混沌とする中、青少年をはじめ、我々大人の心も荒むような時代を迎えています。レオクラブの会員の皆様には、心豊かで幸せな人生・希望もてる人生を謳歌していただくために、レオクラブの活動を通じて、ライオニズムを勉強され、社会の一員としての資質の向上に努めていただきたいと思います。

レオクラブは、多くの人々と友愛の絆を深めて、地域社会の環境保全や、高齢者・身障者への支援など、人々の心に温もりを与える奉仕活動を行うものであり、「地域作り」、「人作り」、究極は「自分作り」にあります。いろんな奉仕活動の中で、自分自身の喜びを感じることができる人間になっていただきたいと思います。

国分隼人ライオンズクラブの会員におかれましては、20年、30年後の将来の豊かな社会を夢に抱きつつ、この第一幼児教育短期大学レオクラブの育成にご尽力下さいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、国分隼人ライオンズクラブ並びに第一幼児教育短期大学レオクラブのますますのご隆盛と、会員の皆様のご健勝・ご多幸を祈念申し上げ、お祝いの言葉とさせていただきます。

